JHL NEWS

No.1
2005年８月29日
●発行●
日本ハンドボールリーグ委員会
委員長・川上　憲太
東京都渋谷区神南1-1-1
電話 03-3481-2494

開幕から好カード続出！　熱戦カウントダウン!!

～第30回日本ハンドボールリーグ開幕迫る～

第30回日本ハンドボールリーグは、９月３日横浜文化体育館（神奈川）での女子・広島メイプルレッズ―オムロン戦、男子・大崎電気―ホンダ戦を皮切りに、来年３月まで続くロングランの戦いが間もなくスタートする。３月５日までのレギュラーシーズンシーズンの上位男子４チーム、女子３チームによるプレーオフで栄えある30代目のチャンピオンが決定となる。

昨年同様に７チーム３回総当たり制で上位４チームがプレーオフに進出して優勝を争う男子は、前回リーグで悲願の初優勝に輝いた大崎電気をはじめ、大同特殊鋼、湧永製薬、ホンダ、さらには上位浮上にあくなき執念を燃やすトヨタ車体、トヨタ紡織九州（アラコ九州から改名）、ホンダ熊本と各チームの力の差は接近しており、スタートから目の離せないデッドヒートが展開されそうだ。

５チーム３回総当たりの女子は、女王に君臨する広島メイプルレッズのＶ８なるかが最大の焦点。林五卿監督のもと７月の全日本実業団選手権ではチャレンジャーのオムロンらを攻守に圧倒、まざまざと底力を見せつけた。呉成玉、青戸らの名手たちに中堅、若手も力をつけており、まさに黄金の布陣で臨む今リーグ。ストップ・ザ・メイプルレッズに燃えるオムロン、前回初のプレーオフを戦ったソニーセミコンダクタ九州らが、どこまで食い下がるか。３年ぶりのプレーオフ進出に照準をあてる北国銀行はスタートダッシュがカギ、最下位脱出をもくろむＨＣ名古屋は、まずは早い時期での１勝でムードを高めたい。

㊤大崎電気・豊田㊦広島メイプルレッズ・青戸

第１週では神奈川などで男子３試合、女子２試合が組まれており、男子ではディフェンディングチャンピオンの大崎電気と元王者のホンダが激突。大崎電気はチームの顔ともなっていた中川がチームを離れたが、スーパーエースの宮﨑、通算得点記録の更新を続ける岩本、新キャプテンの東ら新旧の日本代表メンバーをズラリと並べた豪華な布陣で一気のスパートを狙う。ホンダは羽賀、ＧＫ四方、吉井を中心に河瀬、中谷らの大型選手の成長に伴い、この１年で磨きをかけてきた伝統のＤＦ力で勝負を挑む。名門対決となる大同特殊鋼―湧永製薬も白熱戦が必至、姜在源新監督のもと白元喆、松林、末松、ＧＫ高木らで主軸を組む大同特殊鋼は、全日本実業団優勝の勢いと自信をふくらませての参戦となり、山口、下川、古家らに売り出し中の東らで８年ぶりのＶ奪還に燃える湧永製薬も宿命のライバルとして一歩も譲れまい。また、トヨタ車体―ホンダ熊本戦は、今後の上位争いを占う意味でも注目の一戦。酒巻総監督を迎えたトヨタ車体が、新看板に掲げるアップテンポの戦いで勝機を狙うのに対し、ホンダ熊本はポイントゲッター譚崇聖の退団により不安材料はあるものの、ベテラン池辺らを中心したチームのまとまりと大井ら若い力の台頭で対抗する。

女子は、いきなり広島メイプルレッズとオムロンがオープニングで顔を合わせた。実業団選手権では35―22と予想外の大差で圧勝した広島メイプルレッズが再び厚い壁となって立ちはだかるか、それともオムロンがチャレンジャー一番手としての意地を爆発させるか。ここで再び力の差がのぞくようだと広島メイプルレッズ独走という前評判が現実のものになりかねない。オムロンは佐久川、冨田、さらには洪廷昊、許順栄のニュー韓国コンビらで女王の出端をくじきたい。ソニーセミコンダクタ九州―北国銀行戦は、プレーオフ進出を第一目標とする両チームにとって絶対負けられない一戦。スタートから激しい競り合いが予想される。

第１週の日程

［１　部］

9月3日(土)	神奈川・横浜文化体育館（ＪＲ京浜東北・根岸線関内駅徒歩５分）	14：00～（女）	メイプルレッズ×オムロン
		16：00～（男）	大崎電気×ホンダ
9月4日(日)	神奈川・横浜文化体育館（ＪＲ京浜東北・根岸線関内駅徒歩５分）	13：00～（女）	ソニー×北国銀行
		15：00～（男）	大同特殊鋼×湧永製薬
	徳島・徳島市立体育館（ＪＲ徳島駅徒歩５分）	13：00～（男）	トヨタ車体×ホンダ熊本

スタートから白熱した戦い必至！

☆男子☆

〈大崎電気〉

全日本実業団選手権は大同特殊鋼に屈して２位。リーダー格の中川を欠いた布陣で、エース宮﨑をスタートから密着マークされてペースを崩した。しかし、「ミスと準備不足」を敗因にあげた首藤監督はじめ、新キャプテン東、ベテラン岩本らは「もう負けない。次はしっかり借りを返す」とリベンジ宣言。日本代表メンバーがズラリと並ぶ布陣。注目株の猪妻も全開スタートを狙う。

〈大同特殊鋼〉

昨年、無冠に終わっただけに今回の実業団選手権の制覇を喜びつつも浮かれた様子は全くない。「とにかく８年間遠ざかっている日本リーグタイトルをこの手に」と意欲にあふれる姜在源監督のもと、白元喆、松林、進境著しい末松、ＧＫ高木ら“計算できる”主軸の働きに加え、武田、渡久川のルーキーコンビも第一線に飛び出し、新旧メンバーが競り合うチーム内には躍動感がみなぎる。

〈湧永製薬〉

総勢15人のメンバーのうち、エース候補として期待の福田が肩の故障、サイドマンの下川もケガに苦しみ、山口、杉山の大型選手も全盛期から比べると体力ダウンは否めない状況。前回でも目についた後半のペースダウンをどう修正していくかが大きなポイントを握る。実績充分のベテランから大器の片りんを見せる山中、小野の両新人まで、各自が仕事こなして一丸のパワーで臨みたい。

〈ホンダ〉

広政らの引退や主力の高齢化もあって「厳しい戦いは必至。ベンチ入りの14人をフル回転させて戦っていきたい」と荒木監督。その一方で昨シーズンを戦い抜いたことにより、横地、小倉、野嶋といったキャリアの浅いメンバーに成長が見られ、注目株と推された中谷、河瀬らが中心となるＤＦ陣の整備も進んで60分を走り切る下地は出来上がった。あとは一戦必勝の闘志をぶつけるのみ。

〈トヨタ車体〉

新たに酒巻総監督を迎え、リーグ随一の選手層をフル活用し、従来のセオリーを覆すハンドボールで勝機を切り開いていく構え。攻撃回数を重視し、アップテンポに戦うことをマスターする段階を経て、ＤＦや細かいコンビネーション、相手に応じた戦術などに着手して臨む今リーグ。ファンへのメッセージは「Ａチームを２つ持つトヨタ車体、１試合でも見逃すと後悔するかも！」

〈トヨタ紡織九州〉

前回は序盤で次々と上位候補を倒し、台風の目となったが、その後は相手チームのマークにあい、故障者が出た中盤以降はランクを落として６位、目標としたプレーオフに届かなかった。浮き彫りにされた選手層の薄さは藤山、中畠の加入と、石黒、村上秀、松野ら若手の台頭で大幅に解消されそう。呉相民、朴正鎮の強力センターラインは健在。飛躍を期して勝負の年に挑む。

〈ホンダ熊本〉

終盤の競り合いで勝ちきれず、もどかしいまでの惜敗続きで入れ替え戦に甘んじた昨シーズン。主砲・譚崇聖がチームを離れ、メンバーが揃っての練習が激減するなど、チームを取り巻く環境はさらに厳しくなっているが、そのぶん個々のレベルアップとチームの結束力で激戦のリーグに挑む。ＤＦ力強化にまい進してきた成果は見込める。攻撃では期待の若松、大井が太い柱となれば。

☆女子☆

〈広島メイプルレッズ〉

シーズン初めの実業団選手権も、万全の態勢を整え、オムロンらチャレンジャーたちを大きく引き離して危なげなくタイトルを握った。それでも「まだまだ未熟。少しずつレベルアップを」という林五卿監督には全くスキが感じられい。ＤＦからの速攻を最大の武器に、チーム力アップ、強気のプレー、集中力に磨きをかけて臨む今リーグ。やはり大本命という以外に言葉は見つからない。

〈オムロン〉

黄慶泳コーチが監督に昇格して臨む今リーグ。ＤＦのスペシャリスト大石や展開の中心だった劉晋淑がチームを離れ、文字通り新たなスタートとなる。洪廷昊、許順栄の韓国コンビ、巧者・佐久川、強打の冨田、攻守の要となる坂元、サイド水野、ＧＫ勝田と続くメンバーの顔ぶれは豪華。安心院、西本、東濱、吉田ら潜在能力を秘めた若いパワーの台頭で、なんとか牙城に迫りたい。

〈ソニーセミコンダクタ九州〉

「全員でバラエティ豊かに得点し、スピーディでトリッキーなハンドを」がテーマ。田中や飛田ら実績充分のレギュラーと控えとの力の差が大きい現状の中、リーグ開幕前に左腕エース郭惠静がヒザを痛めて戦線離脱このピンチをルーキー千葉、長野ら期待とする若い力の奮戦で切り抜けられるかが序盤のポイントだが、テーマ通りの戦いをすることで逆風を大チャンスに変えたい。

〈北国銀行〉

前回は中盤以降に伸び悩んで失速、ミスから自滅を招く試合を繰り返して４位に留まった。チーム、個人がステップアップを目指した今シーズンは、チーム内の競争を激化して底上げを図ってきた。小野澤の戦線離脱（アキレス腱断裂）は痛いが大物ルーキー谷口の加入もあり、上町、武井、ＧＫ田代らのさらなる飛躍で大黒柱・中村の負担が軽減できれば３年ぶりのプレーオフも射程圏に。

〈ＨＣ名古屋〉

「攻守において力不足を痛感した」（田中ヘッドコーチ）前回の反省をもとに、勝ちにこだわる意識を求め、チームの意識改革に取り組んできた。いちから体力強化に励んで個人・全体がレベルアップ。菅谷姉妹、羽出重、佐藤といった不動の主力陣に２年目の原田、長田、岡田らがチームになじみ、不安を抱えていたＧＫ陣もルーキー近藤の加入がプラス材料に。まずは１勝で波に乗りたい。

２部男子　北陸電力の独走なるか

北陸電力・桜井

ＨＣ東京・五島

１部から１週遅れの９月10日にスタートする２部男子は、４チーム３回戦制で２部優勝を争う。
前回は12戦全勝で首位を独走した北陸電力は、ホンダ熊本との入れ替え戦で延長の末に26－28と惜敗、今年７月の全日本実業団選手権（富山）でも緒戦でトヨタ車体に31－40、７－８位決定戦ホンダ熊本に32－33と、いずれも敗れはしたが１部勢を相手に大接戦を演じ、実力の高さを証明した。総勢12人でＣＰは９人と少数の布陣で臨むが大黒柱の神田をはじめ、中堅、若手の進境でスピーディ豊かな攻守に安定感を増しており、今リーグも優勝争いの中心となるのは間違いない。
北陸電力のライバル一番手となるＨＣ東京は、ＧＫの宇田川兄弟、ＣＰも飯島、五島、泉、田中ら歴戦のベテラン勢が中心となるが、前回31得点をマークした佐藤啓、２年目の新鋭・三坂らの若手が力をつけ、さらには藤原ら３人の新人のほか、Ｋ・レフラーに続く２人目の外国人プレーヤーとしてドイツでプレー経験のあるＡ・デュリングが加わり、多彩な陣容となった。「ベテラン、若手も関係なく個人の能力アップに取り組んできた」（佐藤監督）という体力中心の練習が、ロングランの戦いでどう実を結ぶか。
香井新監督のもと再浮上を期すトヨタ自動車は「個人能力の低迷は否めず、体力・技術面などトータルバランスの悪さが出た」という昨シーズンの反省をふまえ、スタミナを全面的に強化、文字通り“足攻”を武器とした波状攻撃をしかける構えだ。新キャプテンのＧＫ佐藤も「つねにチャレンジ精神で目標の２部優勝を狙う」とキッパリ。厚沢、田中、吉永らの中軸に、新エースに名乗りをあげた２年目の福田、岡村らの若い力をからませてスタートダッシュを狙う。
前回２勝１分９敗で４位と２部最下位を脱した豊田合成は、７月の全日本実業団ではＤＦの要・山田を欠きながら、原、山越、湯脇らキャリアの浅い若手を中心に奮戦。「基礎体力、技術を重点強化した結果、昨シーズンよりひと回り成長した」（半田監督）成果が各試合に表れた。課題となるＤＦ力に磨きがかかれば、もうワンランクの飛躍も可能。昨年、トヨタ自動車と引き分けた自信も若いチームにはプラスに作用するはずだ。

第29回リーグ結果

１部男子

	勝	分	敗	勝点	得点	失点	差
① 大崎電気	14	1	3	29	503	454	49
② 大同特殊鋼	11	2	5	24	483	437	46
③ 湧永製薬	8	3	7	19	422	397	25
④ ホンダ	7	3	8	17	427	436	-9
⑤ トヨタ車体	6	2	10	14	435	464	-29
⑥ アラコ九州	6	1	11	13	448	494	-46
⑦ ホンダ熊本	5	0	13	10	458	494	-36

１部女子

	勝	分	敗	勝点	得点	失点	差
①広島メイプルレッズ	10	0	2	20	353	294	59
②オムロン	10	0	2	20	325	244	81
③ソニーセミコンダクタ九州	6	0	6	12	325	343	-18
④北国銀行	3	1	8	7	252	285	-33
⑤ＨＣ名古屋	0	1	11	1	253	342	-89

※１部男女はレギュラーシーズン順位。
男子・１～４位、女子・１～３位の順位はプレーオフで決定。

男子プレーオフ準決勝・大崎電気　29－27　ホンダ　　大同特殊鋼　28－27　湧永製薬
決　勝・大崎電気　28－24　大同特殊鋼
女子プレーオフ準決勝・オムロン　27－26ソニーセミコンダクタ九州
決　勝・広島メイプルレッズ　28－27　オムロン

２部男子

	勝	分	敗	勝点	得点	失点	差
① 北陸電力	12	0	0	24	369	224	145
② ＨＣ東京	9	0	3	18	332	232	100
③ トヨタ自動車	5	1	6	11	264	299	-35
④ 豊田合成	2	1	9	5	271	363	-92
⑤ 大阪ガス	1	0	11	2	236	354	-118

第29回 リーグ個人表彰

賞	〈男子１部〉	記録	回数	〈女子１部〉	記録	回数
・最高殊勲選手賞	宮﨑 大輔（大崎電気）			大前 典子（広島メイプルレッズ）		
・最優秀監督賞	首藤 信一（大崎電気）			林 五卿（広島メイプルレッズ）		
・殊勲選手賞	白 元喆（大同特殊鋼）			佐久川ひとみ（オムロン）		
・得点王	呉 相民（アラコ九州）	135点	２回目	金 鎮順（広島メイプルレッズ）	105点	初
・フィールド得点賞	譚 崇聖（ホンダ熊本）	129点	初	郭 惠靜（ソニーセミコンダクタ九州）	68点	２回目
・シュート率賞	松林 克明（大同特殊鋼）	0.797	３回目	佐久川ひとみ（オムロン）	0.677	初
・７ｍスロー得点賞	呉 相民（アラコ九州）	41点	２回目	冨田 有美（オムロン）	43点	初
・７ｍスロー阻止賞	藤田 功一（ホンダ熊本）	0.350	初	田代ひろみ（北国銀行）	0.429	初
・最優秀選手賞	宮﨑 大輔（大崎電気）		初	金 鎮順（広島メイプルレッズ）		初
・ベストセブン賞 GK	坪根 敏宏（湧永製薬）		５回目	GK 浅井友可里（広島メイプルレッズ）		初
CP	下川 真良（湧永製薬）		４回目	CP 大前 典子（広島メイプルレッズ）		初
	山口 修（湧永製薬）		４回目	佐久川ひとみ（オムロン）		４回目
	豊田 賢治（大崎電気）		初	坂元 智子（オムロン）		初
	宮﨑 大輔（大崎電気）		初	金 鎮順（広島メイプルレッズ）		初
	金 性憲（大同特殊鋼）		２回目	郭 惠靜（ソニーセミコンダクタ九州）		初
	譚 崇聖（ホンダ熊本）		初	田中美音子（ソニーセミコンダクタ九州）		８回目
・ベストディフェンダー賞	羽賀 太一（ホンダ）		３回目	大石 真代（オムロン）		初
・フェアプレー賞	湧永製薬 98点/18試合（5.4点/試合）			広島メイプルレッズ 65点/12試合（5.4点/試合）		
・最優秀新人賞	宮﨑 大輔（大崎電気）			岡田 奈穂（HC名古屋）		

〈男子２部〉

賞	氏名（所属）	記録	回数	・敢闘賞	回数
・最多得点賞	杉山 卓也（北陸電力）	81点	初		
・フィールド得点賞	佐藤 豪洋（豊田合成）	58点	２回目	GK 有江 啓（北陸電力）	初
	原 貴之（豊田合成）	58点	初	CP 杉山 卓也（北陸電力）	２回目
・シュート率賞	高橋 準（北陸電力）	0.695	２回目	桜井 渉（北陸電力）	初
・７ｍスロー得点賞	杉山 卓也（北陸電力）	32点	初	落合 信也（北陸電力）	初
・７ｍスロー阻止賞	山本 敏（トヨタ自動車）	0.333	２回目	佐藤 豪洋（豊田合成）	２回目
・ベストディフェンダー賞	神田 友和（北陸電力）		初	原 貴之（豊田合成）	初
・フェアプレー賞	北陸電力 61点/12試合（5.1点/試合）			倉田 正洋（トヨタ自動車）	初
・最優秀新人賞	落合 信也（北陸電力）				

〈レフェリー〉

・最優秀レフェリー賞　家永 昌樹（大阪）　福島 亮一（熊本）　・最優秀新人レフェリー賞　該当者なし

日本リーグのホットな情報をどうぞ……

★ナマ情報をインターネットで画像とともに……★

○日本ハンドボールリーグの公式ホームページをご覧ください。

アドレス　http://www.jhl.handball.jp/

ｉモード版　http://www.jhl.handball.jp/i/

★見どころをあなたのもとに郵送いたします……★

○日本ハンドボールリーグ公式情報・週間「JHLニュース」

年間25回発行予定/3000円（郵送料込）

※公式ホームページよりダウンロードしてご利用いただくことも可能です

日本ハンドボールリーグ委員会（TEL03-3481-2494・FAX03-3481-2367）